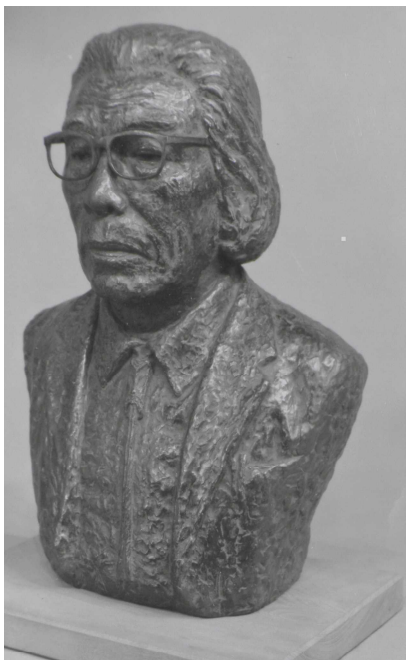
# 直耕の人　細 川 重 計 校長（II）

**3. 社会教育の功績**　　青年教育に対する情熱は格別で、青年教室に産業教育をとり入れ、凶作や「やませ」の研究等、農業の近代化を目指した研究により、封建的な農村における親の説得にも成功しております。地域産業の振興はもとより、農業後継者の育成にも尽力されました。また、生活作文や戯曲創作等の指導を通じて優秀な人材を育成しました。昭和42年から青森県社会教育指導員として青年教育の指導に当たり、青年教育の振興に寄与されました。

**4. 新生活運動の功績**　　昭和31年に青森県新生活協議会が結成されるやこれに参加し、新しいむらづくり（新しいコミュニティの創造）運動実践地区の指導に情熱をかたむけ、多くの実績をあげました。さらに、新生活指導委員・理事として運動を推進し、昭和45年度には、倉石村の石沢集落が新生活運動協議会の**「あすの地域社会を築く住民活動賞（推奨＝全国第一位）」**を受賞しましたが、これは細川重計先生が直接指導に当たられたたまものです。これにより、全国各地から多数の見学者が来訪し、絶賛を浴びるにいたりました。

昭和39年には、永年の社会教育活動に対する功績により、財団法人社会教育協会から**全日本社会教育功労者表彰**を受けました。

ある日のご家族（左より、**重計**・**ヨシ卫夫人**・長女**幽**・その夫**竹松**の各氏）



細川重計先生の胸像

**5．苺栽培への功績**　　昭和28年、ニシン漁へ出稼ぎに行っていた浜市川の男性22名が、嵐による事故で亡くなりました。その子たちの悲しむ姿を見た細川重計校長が、出稼ぎをしなくてもすむように、当時は珍しかった苺の栽培を木村徳男氏等に呼びかけ、本格的な「苺生産」が開始されました。今では**「市川の苺」**として全国的に有名になり、細川重計校長の夢と情熱は、生産者にしっかりと受け継がれています。

**6．終わりに**　　稲葉捨己元八戸市教育長は、「**二宮尊徳**は土木治水から心の開発へ進んだが、**細川重計先生**はそれとは逆に、学校教育・社会教育で**心田開発**に努め、さらに産業の振興により**地田開発**という偉業をうち樹てられ、多賀地区の振興に究極面目を完全に発揮された。」　また、「先生が今日、一人一人の多賀の子どもの輝く瞳と、みごとに熟した一つ一つのイチゴの実をご覧になり、人生最高の喜びを感じておられることでしょう。」と勲五等瑞宝章叙勲祝賀会で述べておられます。

最後に、ご家族は現在多賀小学校近く住んでおられ、苺を栽培し、生産の推移についても関心が深いようにお聞きしております。感謝。（木村隆一）

**参考：「直耕の人　細川重計先生を語る」**

※**「直耕（ちょっこう）」**とは、「直（じか）に耕す」という意味ですが、現代においては「直耕の人」という時、農業者というよりも「開拓者的存在として、自然と共に生きている人」を指します。

解説⇒八戸歴史研究会会員・近藤歯科医院長　：　**近藤悦夫先生**